

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月22日～

先週の為替相場はドル／円がじわじわ上昇し、161.8円まで値を伸ばしました。

2024年夏には162円手前で介入しているため日銀が介入してくる可能性があります。

米国が利下げ予想から完全に年内利上げ予想に転換したこともドルを押し上げました。

年内1回、もしくは2回の利上げもあるかもしれないという状況になってきたことで、円安を止めることは難しい状況です。

ウォーシュFRB議長は金利予想を示すドット・チャートには参加せず、今後どのようにFRBを改革していくのか気になります。

マーケットとの対話を重視せず、今までのFRBとは違った動きになってくる可能性があります。

日本も米国も今年後半の金融政策がどうなっていくのか不透明な部分もあり、日本の利上げが遅れて、米国が想定以上のペースで利上げに動けば、円安は新たな水準に突入するという意見もあります。

投機的な動きによる円安というよりは、ファンダメンタルに沿った動きが円安を推し進めているという状況なので、円安を止めるには大胆な政策変更が必要になってきます。

日本が秋まで利上げもせず、介入もしなかった場合は、ドル／円は165円を超えていく可能性もあります。

テクニカルで見るとあまり抵抗もなく、162円を超えてしまうと勢いを止めることが難しくなり、円安が加速するかもしれません。

先週はイランと米国が戦闘終結で合意し、正式に署名したことで原油価格が急落して、日経平均は7万2000円あたりまで上昇しています。

株価を見ると完全なリスクオン相場ですが、イスラエルとレバノンのヒズボラとの戦闘が本当におさまるのか不安な面も多く、状況が急変するリスクは残ります。

覚書に署名した後もイスラエルの攻撃は続き、これに対して怒ったイランは、ホルムズ海峡を再封鎖したと言っています。

スイスで米国とイランは仲介国とともに協議を始めましたが前途多難に見えます。

ホルムズ海峡の船の運航が本当に元の状態に戻るかどうかかわからず、しばらくは様子見状態が続きそうです。

そして、英国のスターマー首相が22日にも辞意表明かという情報も入ってきました。

政治的混乱となれば、ポンドには逆風となる可能性があります。

また、再びロシアとウクライナの状況が悪化してきていることもあり、欧州のニュースも気をつけて見ていきたいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週はついに 161 円台後半まで上昇し、161 円台前半でマーケットは終わっています。
4 月末の介入が 160.7 円あたりだったので、明確にこのラインを超えてきました。
2024 年夏の高値が 161.95 円あたりなので、162 円では介入してくる可能性があります。
介入すれば 159.5 円を割り込んで 157 円程度まで急落するかもしれませんが、下がれば買いが入りやすく、すぐに 160 円程度まで戻すかもしれません。
乱高下に巻き込まれないように注意がいります。
買う場合は、大きく下がるのを待つのが安全です。無理なトレードは控えたいです。

<気になるクロス円>

クロス円は動きがバラバラなので、チャートを確認することが大事です。
ユーロやポンドはレンジ相場のように見えます。
カナダドルは週足でも陰線が続いているため安値更新を警戒しないといけません。
オセアニア通貨(豪ドル・NZ ドル)も上値が重くなってきているように見えます。
利上げ期待から米ドルが強くなってくるとクロス円は勢いが弱まってくる可能性があります。
南アフリカランドは 2015 年夏ごろのレートまで上昇してきました。
このまま 10 円を超えていくかどうか注目です。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では植田・日銀総裁発言、6 月東京都都区消費者物価指数などがあります。
米国では 6 月製造業・サービス部門・総合 PMI(速報値)、6 月リッチモンド連銀製造業指数、1-3 月期四半期経常収支、5 月新築住宅販売件数、5 月個人消費支出(PCEデフレーター)、前週分新規失業保険申請件数、5 月耐久財受注、1-3 月期 GDP(確定値)、6 月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。
欧州ではドイツとユーロ圏で 6 月製造業・サービス業 PMI(速報値)、ユーロ圏でラガルド・ECB 総裁発言、ドイツで 6 月 IFO 企業景況感指数などがあります。
ほかには、カナダ、オーストラリアで 5 月消費者物価指数の発表などがあります。